

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌科学技術専門学校
設置者名	学校法人総合技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数	省令で定める 基準単位数	配 置 困 難
専門課程	建築技術学科	夜・ 通信	39 (1054)	7 (160)	
	自然環境学科	夜・ 通信	46 (799)	7 (160)	
	バイオテクノロジー学科	夜・ 通信	34 (578)	7 (160)	
	海洋生物学科	夜・ 通信	48 (816)	7 (160)	
	電気技術学科	夜・ 通信	22 (374)	7 (160)	
	情報システム学科	夜・ 通信	74 (1292)	7 (160)	
	自動車工学科 二級自動車整備士コース	夜・ 通信	60 (1564)	7 (160)	
(備考) () 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌科学技術専門学校
設置者名	学校法人 総合技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日	コンプライアンス担当
非常勤	公認会計士	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日	財務会計担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌科学技術専門学校
設置者名	学校法人 総合技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学科ごとに各業界の変化や求められる教育・人材育成に対応するため、関連する企業や就職支援室などと情報を共有し、求められる知識と技術について検討したうえで、3月にカリキュラムを作成し、授業内容に反映している。 教務規定に定められた成績評価方法や基準に基づき、科目ごとの評価基準を作成して授業計画(シラバス)に明記している。シラバスの詳細は年度開始時のオリエンテーションにて学生に説明している。	
授業計画書の公表方法	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位認定については、教務規定にて出席時間数や成績評価基準が明確に定められており、各科目において必要な時間数の出席と試験やレポートなどで評価基準満たした学生に単位を認定している。 これらの規定については、入学後のオリエンテーション時に配布する「学生生活のしおり」に記載し、説明している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 教務規定にて成績評定を4段階(優・良・可・不可)と定め、その判定基準も明確にし、教務便覧(専任教員用・非常勤講師用)、に記載している。また、これらの基準について学生配布用の「学生生活のしおり」にも記載し、オリエンテーション等で周知している。 成績の順位については、各科目の評定を点数化(優…4、良…3、可…2、不可1～0)し、GPAを用いて行っている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校に所定の修業年限以上在学し、学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の試験に合格した者に対して卒業の認定を行う。 教務規定に厳しく定められており、教務便覧および「学生生活のしおり」に記載し、入学式をはじめオリエンテーションにて説明・周知している。 また、これを厳格に運用するため様々な資料を基に、関係する教職員で卒業認定会議を行い、卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌科学技術専門学校
設置者名	学校法人総合技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
財産目録	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
事業報告書	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		専門課程	建築技術学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	109 単位 (2244)	85 単位 (1258)		21 単位 (986)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		13 人	3 人	1 人	8 人	9 人	
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）
卒業・進級の認定基準
（概要） 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。
学修支援等
（概要） 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 （100%）	1 人 （ 11.1%）	8 人 （ 88.9%）	人 （ %）
（主な就職、業界等） 建設業（ゼネコン、ハウスメーカー）、建築設計業、建築設備業			
（就職指導内容） キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士、二級建築施工管理技士、建築C A D検定（2 級・3 級）、等			
中途退学の現状			
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率	
19 人	2 人	10.5%	
（中途退学の主な理由） 長期休学者の退学、学習障がいと診断された留学生の退学。			
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学生同様の支援、就職サポートを行っている。			

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		専門課程	自然環境学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	84 単位 (2006)	60 単位 (1190)		24 単位 (816)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		14 人	1 人	2 人	11 人	13 人	
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
(概要)							
科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。							
成績評価の基準・方法							
(概要)							
試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）							
卒業・進級の認定基準							
(概要)							
学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。							

学修支援等	(概要) 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。
-------	---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (%)	7 人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			
環境調査・分析、ネイチャーガイド、環境保全団体、公務員（林業職）、 児童教育、調剤薬局事務			
（就職指導内容）			
キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等））			
技術士補（環境）、生物分類技能検定、2 級ビオトープ管理士、公害防止管理者、等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	1 人	5.8%
(中途退学の主な理由) 長期休学者の進路変更による退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学学生同様の支援、就職サポートを行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		専門課程	バイオテクノロジー学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	84 単位 (1898)	56 単位 (1014)		28 単位 (884)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		19 人	人	1 人	11 人	12 人	
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）
卒業・進級の認定基準
（概要） 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。
学修支援等
（概要） 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 人 (100%)	1 人 (25%)	3 人 (75%)	人 (%)
（主な就職、業界等） 品質管理職、公務員（化学職）			
（就職指導内容） キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） バイオ技術者（初級・中級・上級）、毒物劇物取扱責任者、危険物取扱者、等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学生同様の支援、就職サポートを行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	海洋生物学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	96 単位 (1836)	84 単位 (1428)		12 単位 (408)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		30 人	人	1 人	8 人	9 人	
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。(詳細はシラバス参照)
卒業・進級の認定基準
(概要) 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9 人 (100%)	0 人 (%)	8 人 (88.8%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 公務員（水産職）、増養殖技術員、漁業			
(就職指導内容) キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 小型船舶操縦士（1 級・2 級）、生物分類技能検定、潜水士、ダイビングライセンス、等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学生同様の支援、就職サポートを行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		専門課程	電気技術学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	94 単位 (2006)	70 単位 (1224)		24 単位 (782)	
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人		36 人	1 人	3 人	8 人	11 人
(備考)						
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。						

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）
卒業・進級の認定基準
(概要) 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 (100%)	0 人 () (%)	14 人 (100%)	人 () (%)
（主な就職、業界等） 電気総合職、電気工事士、電気工事施工管理職、自動販売機メンテナンス			
（就職指導内容） キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種電気工事士、2 級電気工事施工管理技士、工事担任者、第三種電気主任技術者、等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	4 人	11.1%
（中途退学の主な理由） 長期休学者の進路変更による退学。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		専門課程	情報システム学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	88 単位 (1870)	64 単位 (1088)		24 単位 (64)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数		専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人		25 人	2 人		2 人	5 人	7 人
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）
卒業・進級の認定基準
（概要） 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。

学修支援等
(概要) 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0 %)	11 人 (73.3%)	人 (0 %)
（主な就職、業界等） プログラマ、システムエンジニア、オペレーター、IT 販売、経営コンサルタント等			
（就職指導内容） キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント、IT パスポート等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	1 人	3.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良による就学意欲の喪失。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学生同様の支援、就職サポートを行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	自動車工学科 二級自動車整備士コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	82 単位 (2005)	42 単位 (725)		40 単位 (1280)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		88 人	8 人	8 人	人	8 人	
(備考)							
() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第 2 条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 科目ごとのシラバスに記載し、オリエンテーションにて学生に説明している。
成績評価の基準・方法
（概要） 試験・レポート。学習態度・出席状況等で総合的に評価する。（詳細はシラバス参照）
卒業・進級の認定基準
（概要） 学年ごとに定められたすべての単位を取得しており、学納金が納入済みであること。
学修支援等
（概要） 担任制による個別支援。学生支援センター、就職支援室による学校生活、就職活動全般の支援。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0 %)	23 人 (100%)	人 (0 %)
（主な就職、業界等） 自動車整備士			
（就職指導内容） キャリアカウンセリング、企業見学、インターンシップ、 履歴書作成、面接・筆記試験指導 等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士（総合）、危険物取扱者、アーク溶接特別教育、ガス溶接技能講習等			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70 人	5 人	7.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振による意欲喪失		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任、スクールカウンセラー、学校医による個別支援。退学見込み者、退学後の学生対しても在学生同様の支援、就職サポートを行っている。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
建築技術学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
自然環境学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
バイオテクノロジー学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
海洋生物学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
電気技術学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
情報システム学科	150,000 円	570,000 円	430,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
自動車工学科 (二級自動車整備士コース)	150,000 円	570,000 円	530,000 円	施設維持費・設備維持費・実験実習費
修学支援（任意記載事項）				
・給付型学内奨学金制度（特待生制度、AO入試制度、特別奨学生制度） ・給付型奨学金の採用候補入学生に対しては、猶予申請があった場合、その決定まで入学金と授業料の納入を猶予している。				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
自己評価の主な評価項目として、「学校運営」、「教育活動」、「学修成果」、「学生支援」等があり、4段階による『自己評価』を行った。校内学校評価委員会は校長、学務部長、就職支援室長、総務部次長、学科長代表、高等課程教務主任から構成されていて、「自己評価結果」を踏まえ、改善策を策定した。それら一連の取組について、「学校関係者評価委員」による評価・ご意見等を聴取するとともに、その結果を教職員に提示し、学校運営や教育活動の改善のために活用を図った。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
小樽双葉高等学校 校長	令和7年4月1日～令和10年3月31日	中学・高校関係者
大通地区西17丁目町内会長	令和7年4月1日～令和10年3月31日	地域住民（町内会）
専門課程 第4期卒業生	令和7年4月1日～令和10年3月31日	卒業生
専門課程 自動車工学科 保護者	令和7年4月1日～令和10年3月31日	在校生保護者(PTA)
株式会社滝川自工 専務取締役	令和7年4月1日～令和10年3月31日	関連業界等関係者
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://s-kagisen.ac.jp/about/disclosure/		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://s-kagisen.ac.jp
--